

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	肥後商事ビル	階数	地上8F		お任せください。
建設地	熊本県熊本市	構造	S造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	155 人		
気候区分		年間使用時間	2,500 時間/年		
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2017年1月 0.0	評価の実施日	2015年12月22日		
敷地面積	382 m ²	作成者	吉田勝		
建築面積	319 m ²	確認日	2015年12月24日		
延床面積	2,508 m ²	確認者	深川明彦		

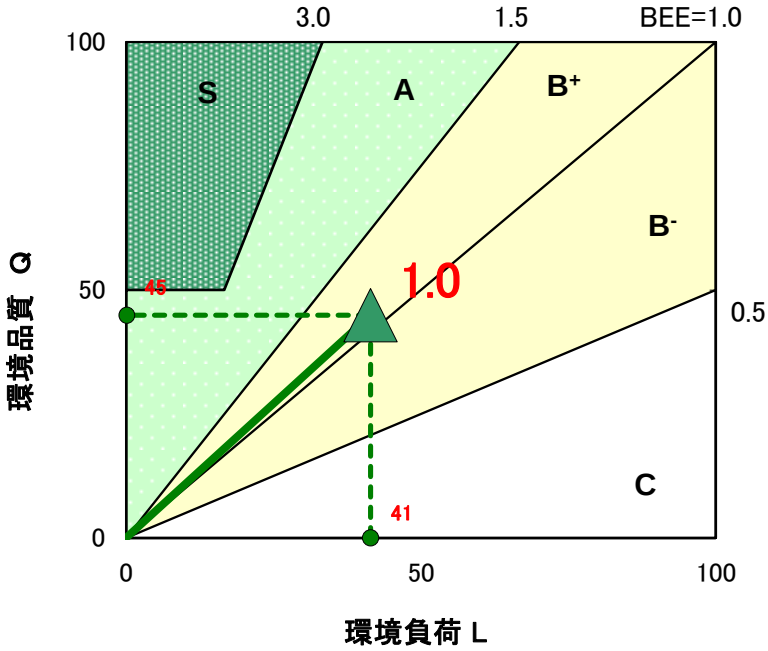
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



BEE = 1.0

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$



環境品質 Q

環境負荷 L

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



排出率

90%

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

77

重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	83.5
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	58.7
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	70.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	87.0

■ 熊本県重点評価基準

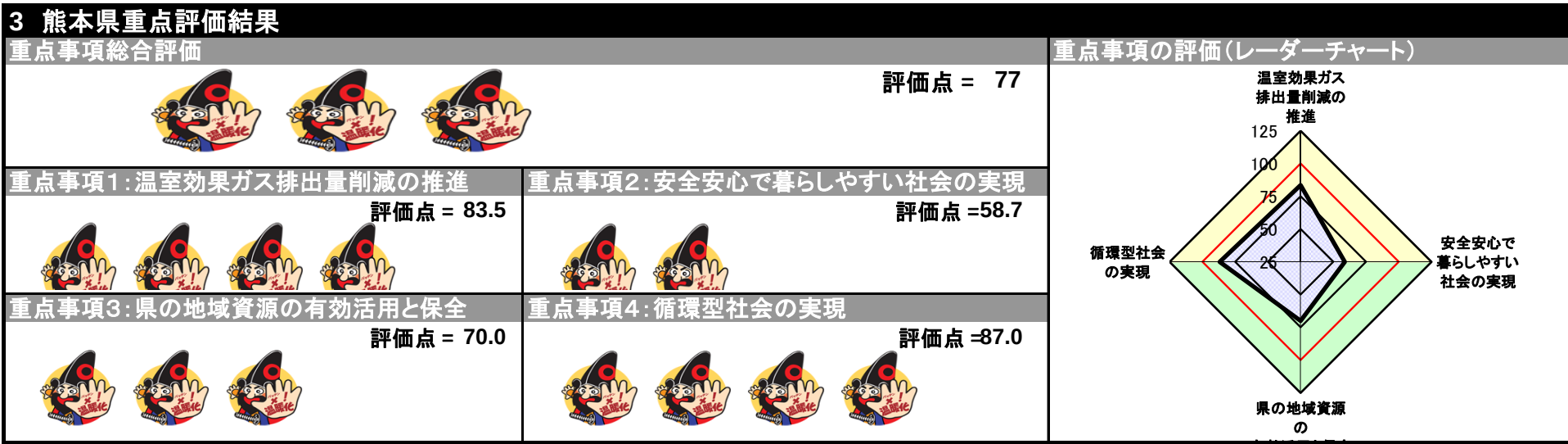
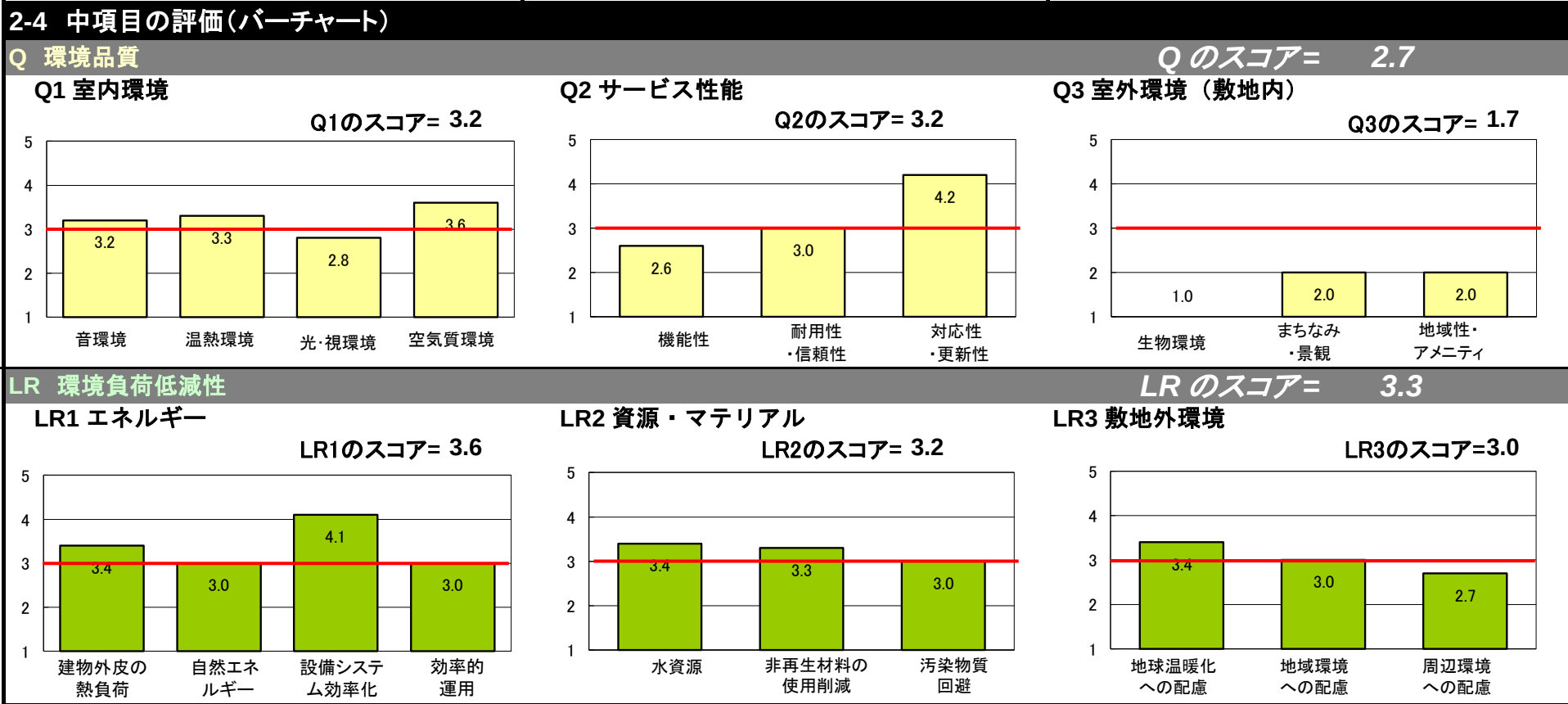
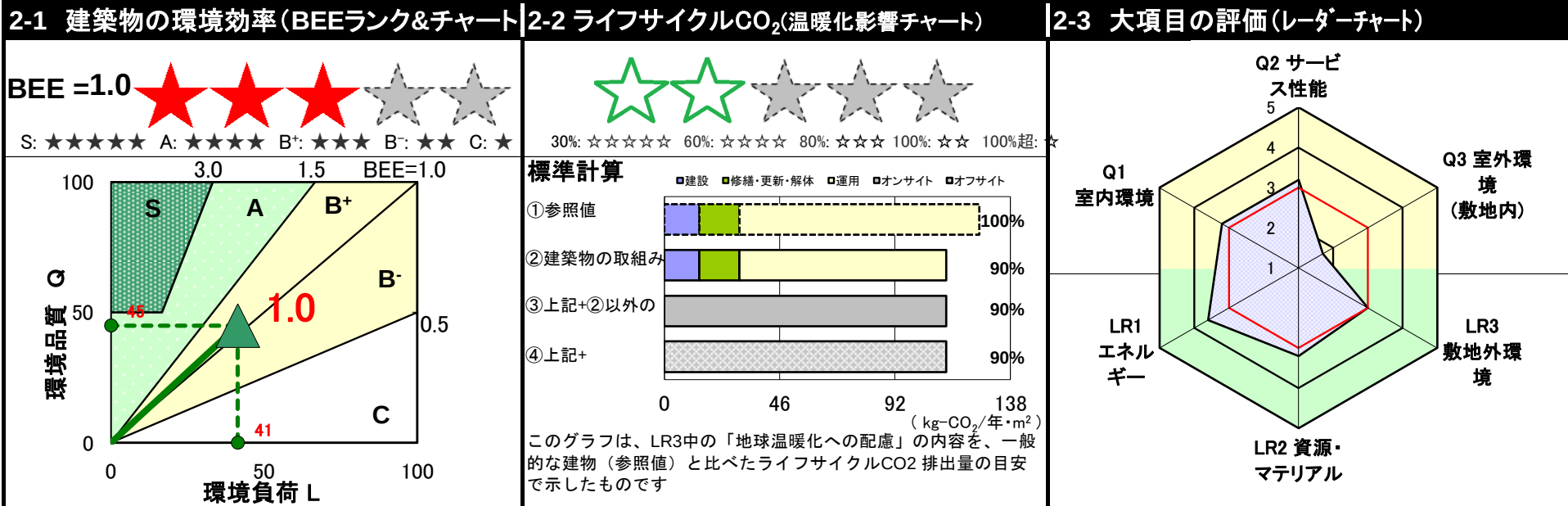
判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	肥後商事ビル	階数	地上8F		
建設地	熊本県熊本市	構造	S造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	155 人		
気候区分		年間使用時間	2,500 時間/年		
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2017年1月 0.0	評価の実施日	2015年12月22日		
敷地面積	382 m ²	作成者	吉田勝		
建築面積	319 m ²	確認日	2015年12月24日		
延床面積	2,508 m ²	確認者	深川明彦		



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版 肥後商事ビル			欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)					
スコアシート			実施設計段階							
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
					評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									2.7	
Q1 室内環境						0.40	-	-	3.2	
1 音環境					3.2	0.15	-	-	3.2	
1.1 騒音					3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音					3.0	0.40	-	-		
1			開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-		
2			界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-		
3			界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-		
4			界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音			床、天井の二面に吸音材を使用		4.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境					3.3	0.35	-	-	3.3	
2.1 室温制御					3.7	0.50	-	-		
1			室温		3.0	0.38	3.0	-		
2			外皮性能		3.0	0.25	3.0	-		
3			ゾーン別制御性		5.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御					3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式					3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境					2.8	0.25	-	-	2.8	
3.1 昼光利用					3.0	0.30	-	-		
1			昼光率		3.0	0.60	3.0	-		
2			方位別開口		-	-	3.0	-		
3			昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策					2.0	0.30	-	-		
1			昼光制御		2.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度			事務室:700lx、応接室・役員室等:500lx		4.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御					3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境					3.6	0.25	-	-		3.6
4.1 発生源対策					4.0	0.50	-	-		
1			化学汚染物質		4.0	1.00	3.0	-		
2			アスベスト対策		-	-	-	-		
4.2 換気					3.3	0.30	-	-		
1			換気量		4.0	0.33	3.0	-		
2			自然換気性能		1.0	0.33	3.0	-		
3			取り入れ外気への配慮		5.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理					3.0	0.20	-	-		
1			CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-		
2			喫煙の制御		3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.2	
1 機能性					2.6	0.40	-	-	2.6	
1.1 機能性・使いやすさ					2.3	0.40	-	-		
1			広さ・収納性		1.0	0.33	3.0	-		
2			高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-		
3			バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性					2.3	0.30	-	-		
1			広さ感・景観		4.0	0.33	3.0	-		
2			リフレッシュスペース		2.0	0.33	-	-		
3			内装計画		1.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理					3.5	0.30	-	-		
1			維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-		
2			維持管理用機能の確保		4.0	0.50	-	-		
3			衛生管理業務		-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性					3.0	0.30	-	-	3.0	
2.1 耐震・免震					3.0	0.50	-	-		
1			耐震性		3.0	0.80	-	-		
2			免震・制振性能		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数					3.4	0.30	-	-		
1			躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-		
2			外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-		
3			主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-		
4			空調換気ダクトの更新必要間隔		5.0	0.10	-	-		
5			空調・給排水配管の更新必要間隔		5.0	0.20	-	-		
6			主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-		

2.4 信頼性	1	空調・換気設備	耐震クラスA	2.6	0.20	-	-			
	2	給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-			
	3	電気設備		2.0	0.20	-	-			
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-			
	5	通信・情報設備		4.0	0.20	-	-			
	3.0	0.20		-	-					
3 対応性・更新性				4.2	0.30	-	-	4.2		
3.1 空間のゆとり				4.6	0.30	-	-			
	1	階高のゆとり	階高 3.9m	5.0	0.60	3.0	-			
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.21	4.0	0.40	3.0	-			
3.2 荷重のゆとり			積載荷重 4900N/㎡	5.0	0.30	3.0	-			
3.3 設備の更新性			構造部材・仕上げ材を痛めることなく更新・修繕が出来る。 仕上げ材を痛めることなく更新・修繕が出来る。	3.4	0.40	-	-			
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-			
2	給排水管の更新性	3.0		0.20	-	-				
3	電気配線の更新性	5.0		0.10	-	-				
4	通信配線の更新性	5.0		0.10	-	-				
5	設備機器の更新性	3.0		0.20	-	-				
6	バックアップスペースの確保	3.0		0.20	-	-				
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-		-	1.7
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0		
2 まちなみ・景観への配慮				2.0	0.40	-	-	2.0		
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30	-	-	2.0		
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-			
	3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3		
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.6		
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.941	3.4	0.20	-	-	3.4		
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0		
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 0.83	4.1	0.50	-	-	4.1		
	集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI値=0.86	4.1	1.00	-	-			
	集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-			
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0		
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-			
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-			
4.2	運用管理体制	3.0		0.50	-	-				
集合住宅の評価		-		-	-	-				
4.1	モニタリング	3.0		-	-	-				
4.2	運用管理体制	3.0		-	-	-				
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-		-	3.2
1 水資源保護					3.4	0.20	-		-	3.4
	1.1 節水		水栓は節水コマ付。擬音装置(WWCのみ)を採用。	4.0	0.40	-	-			
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-			
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-			
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-			
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.60	-	-	3.3		
	2.1 材料使用量の削減		高炉セメント ー 評価する取り組みが2ポイント	3.0	0.10	-	-			
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-			
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-			
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.20	-	-			
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-			
	2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			5.0	0.20	-	-			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0		
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-			
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-			
	1	消火剤		-	-	-	-			
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-			
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-			
	LR3 敷地外環境				-	0.30	-		-	3.0
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率 90%	3.4	0.33	-	-	3.4		
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0		
	2.1 大気汚染防止		燃焼機器は未使用	5.0	0.25	-	-			
	2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-			
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-			
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-			
	2	污水处理負荷抑制		3.0	0.25	-	-			
	3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-			
	4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-			
	3 周辺環境への配慮				2.7	0.33	-		-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			評価する取り組みが4ポイント	3.0	0.40	-	-			
	1	騒音		3.0	0.33	-	-			
2	振動	3.0		0.33	-	-				
3	悪臭	3.0		0.33	-	-				
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		1.6		0.40	-	-				
1	風害の抑制	1.0		0.70	-	-				
2	砂塵の抑制	3.0		-	-	-				
3	日照阻害の抑制	3.0		0.30	-	-				
3.3 光害の抑制		4.4		0.20	-	-				
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	5.0		0.70	-	-				
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0		0.30	-	-				

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。

- ・周辺の環境や景観と調和し、街に溶け込むデザインとした。
- ・北、東、南側三方の隣地側にあるホテル（客室）へ配慮した平面・設備計画。

Q1 室内環境

注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・開口部には遮音性の高いサッシを採用。
- ・床面と天井面に吸音材を使用。

Q2 サービス性能

注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・事務室の天井高さ2.7m。・照明の色温度調整が可能。
- ・外装板の仕上材に汚れ難い塗装材を採用。

Q3 室外環境（敷地内）

注) 「Q3 室外環境（敷地内）」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・周辺のまちなみにバランスよく調和。
- ・周辺環境へ配慮した設備配置

LR1 エネルギー

注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・空調負荷の低減。

LR2 資源・マテリアル

注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・節水コマ、節水型機器を採用。
- ・リサイクル資材を採用。

LR3 敷地外環境

注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・大気汚染防止（燃焼機器を未使用）

その他

注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 肥後商事ビル

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	77
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				83.5	0.40	33.40
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.4	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.1	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				58.7	0.20	11.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				70	0.20	14.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				87	0.20	17.40
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数